

概要版

平成28年度第2回野洲市都市計画審議会会議録

開催日時 平成28年8月30日(水)
午後2時から4時
場 所 市役所本館3階 第1委員会室
出席者 委員9名中8名
傍聴者 0人

1. 開 会

事務局(都市計画課長)から審議会成立の報告

2. 挨 拶

会長挨拶

市長挨拶

3. 審議案件

【市長から審議会に対し諮問】

(1) 大津湖南都市計画 区域区分の変更について

(1) 大津湖南都市計画 区域区分の変更について (諮問)

資料2、資料3、資料4に基づき事務局説明

審議結果 「意見なし」の旨の答申をいただいた。

(意見等)

A委員 大津湖南の人口フレームで保留する人口ということが書かれているが、これはどういったものなのか。

事務局 大津湖南全体で市街化区域内の人口が55万4千人から60万人に増加すると推計されている。各市の市街化区域で調査し、配分すると、59万4千人になり、全体の60万人にから59万4千人を差引きした5千8百人を増やす余裕があるというものである。

B委員 資料3のスケジュールで滋賀県都市計画審議会が1月ほど遅れるみたいだが、今後の事業に影響することは考えなくてよいか。

事務局 全体の計画には問題ない。

(2) 野洲市立地適正化計画の策定について（継続審議）

資料5、資料6に基づき事務局説明

審議結果 中心拠点・地域拠点・将来的な地域拠点予定地及び交通軸、居住ゾーンについての方針について了承を得た。

(意見等)

C委員 前回は触れたが、配食サービスについては公共交通も含めて同時に進めていく必要があると考える。介護保険を利用していなくても受けられる配食サービスもあるらしいので、そうした情報提供も必要ではないか。

市長 配食サービスだけでなく一般的な福祉サービスについては、介護保険で裏打ちし、民間促進するという制度になっている。それと別途、民間が介護保険の有無に関わらず、ビジネスとして配食サービスを行っているものがある。ニーズがあれば、それぞれの主体がサービスを提供してもらうものとなる。

A委員 拠点の考え方で「人口密度」を用いているが、密度という表現があまり適切ではないかと思う。人口を増やさなければいけないという話であって、どれだけ人口密度が高くなっても面積が少なかったら恩恵を受ける人も少ない。密度ばかりを追うと、間違った方向になるのではないか。

市長 基本的な話だが、都市というのは集住によって様々な都市サービスが可能になっている。そのため、都市というものの指標のひとつに人口密度というのが入っている。

事務局 委員がおっしゃるとおり、一定の人口がないと商業サービスも成り立たないということもある。一方で、日本全体の人口が減少していく中で、一定範囲の人口を維持していくことが重要であり、国では人口密度を指針のひとつとしている。ご意見を踏まえ、人口密度のみに限定して指標を作っていくことは避けていきたい。

B委員 17ページに新駅構想が載っているが、これはどれぐらいの可能性があるのか。今の進捗と今後どうやって進めるのか分かる範囲で教えてほしい。

市長 もともとこれは合併したときの課題であるのに、放置されてしまっていた。それでは困るために、計画に載せて順番に着手していく。篠原駅周辺の開発が一定進んだ後しか可能性がないと思うが、射程に入れているということでここに記載している。また別途、治水排水対策の課題もあり、それも併せてやっていく必要がある。特に南側の地域は排水対策がうまくいかない限りは、全体的な土地利用はできない。

B委員 あそこにはダイハツ寮があり、独身の方を中心に大体500名の方が住んでおられる。寮を出られても、あの地域で家を建てて住んでおられる方もいる。ま

た野洲駅から村田製作所に通勤されている方も 2000～3000 名おられ、その方たちの住める場所は、野洲駅から新駅の間が理想的だろうと思うので、需要はかなり出てくると思う。

もう 1 点確認したいのは、湖周道路へ、野洲市内から抜ける道がないが、今のところ考えていないか。湖周道路と、国道 477 号で途中まではあるが、曲がりくねった道しかない。

事務局 資料の 17 ページの右側に地図で琵琶湖 湖周道路から青い点線で示している道路が、県で作成している 2013 年の道路アクションプランの中で検討路線として計画に上がっている。

D 委員 篠原駅は新しい駅舎ができて、非常に期待していた。しかし、夜は怖いぐらい人気がなく、昼間もほとんど人気がない。村田製作所へのバスが出るようなことも聞いていたが、そういうこともない。商業施設が建ちそうな見込みもなく、駐車場が少しできたぐらいである。拠点づくりという説明があったが、広げられるのか。

市長 私が就任する前の計画では、篠原駅南口広場は村田製作所行きのバスが 5 台入ってくる駐車場を確保しており、総事業費は 40 数億円だった。私が就任してすぐ村田製作所に確認したところ、新快速が止まる野洲駅か近江八幡駅を利用するため、篠原駅へのバス乗り入れは考えていないということだった。そのため計画を見直したが、地域の方には誤解というか、違った情報が流れている。

それと、今年 2 月に出したまちづくりビジョンでは、入町地域を将来的に市街化編入しようとして提案したが、地元自治会から反対があった。

D 委員 市が魅力的な内容の計画を示されてこそ、地域の住民の方も前向きになるのではないかと思うが。

市長 今回の提案は魅力的なことを考えようという前提であったのに、そういうのは結構ですと言われた。

事務局 先ほどの新駅と一緒に、将来的な位置づけとして必要がある。公共交通の拠点であるため、将来的には都市拠点の予定地という形で今回の資料ではお示している。

D 委員 拠点として市が考えても、住民が反対されたら、それはできないということなのか。

市長 そういう前提で駅の整備に巨大なお金を投資してきたが、いざ駅の整備が完了し、都市計画に位置付けようと提案したら、結構ですと言われた。一部の人の声が地域で高く、反対されている。野洲の都市計画、土地利用計画というのはもっとオープンにしていかないと、長年の癖を体現している人が市民の中にいるから、D 委員がおっしゃっているような問題が深刻に出てきている。

D 委員 もっと市民に将来を見据えたまちづくりを啓発し、考え方を変えていく必要

があるということを進めなければいけない。

市長 まさにそこまで変わっていかないと良いまちづくりはできない。

E委員 資料 21 ページの拠点間や居住地を結ぶ青の矢印について、南側の三角に延びている箇所には、拠点があるように思えるがどうなのか。

事務局 近江富士団地については、現状、居住人口は集積しているが、生活サービス施設は集積していない状況である。公共交通路線の軸の考え方として、拠点間及び拠点と居住地を結ぶという整理をしており、近江富士団地は大きな居住地であるため、拠点と結んでいる。かつ、湖南市に抜ける幹線道路であるため矢印で示している。

E委員 野洲駅周辺と北部合同庁舎周辺を拠点とし、篠原駅周辺と祇王が中長期的な予定地となると、新駅整備に課題があるため祇王だけが何か水没したような印象を受ける。野洲駅周辺をもう少し楕円形で示すなど、祇王地域を含められないか。

A委員 学区で言えば三上も同じである。全体の説明を聞いたなら納得もしている。狭い野洲市の中で学区割りを考えたら計画も立てにくいと思う。やはり集まるところに集めようと思っているのはよくわかる。

計画は計画であって、パブコメなどで公表し、前もって交渉して計画と合わせて進めてもらわないと、計画ばかり先行しても駄目だと思う。何回も周知、告示する必要がある。

市長 実現性の問題もあるので、順番に実現をしていく。新駅も、駅を作るだけならそんなに難しくない。ただ JR も言っているように周辺への事業所立地などを考えると、先に篠原駅周辺となるだろう。地域の動きによってはもっと短くなるかもわからないが、今の前提条件では中長期と言わざるを得ない。これは確定ではなくて、状況によって変わると思う。

D委員 篠原駅周辺を拠点にするということだが、実際には篠原小学校やコミセンしたのは周辺から祇王新駅は近い。そのため拠点としてコミセンや篠原小学校周辺を中心に開発し、新駅を利用したほうが便利である。アクセスとしては必要だと思うが、拠点は駅でなければいけないのか。

事務局 16 ページに拠点の考え方を示しているが、将来的な人口密度が維持されること、生活サービス施設が集積している、もしくは将来的にも集積が見込まれる場所という位置づけで整理している。必ずしも駅周辺ではなく北部においても、合同庁舎を中心にしている。

会長 コンパクトシティという考え方は、基本的には公共交通である。この辺の都市は JR が公共交通の軸なので、どうしても拠点として駅が候補に上がる。必ず駅でなければいけないということではない。ただし駅周辺を拠点とする位置

づけは、将来都市像やコンパクトシティを考えると非常に利にかなっている。これは日本に限らず、ヨーロッパでもアメリカでも駅を中心にまちづくりをしていこうというのが世界の趨勢である。

市長 駅というのは会長が言われたように大きな要素である。特に市外との接点、区域外との接点は新陳代謝が起りやすい。一方で西河原は既に市街地が形成され、いろいろな公共サービスが整ってきたところに、市内の事業所に勤める方の住宅地として成り立っている。今の野洲は、市内の事業所の人の行き来もかなり活発であり、駅でなくても市街地形成が成り立つ。そのため中期的には西河原地域の天津湖南幹線沿線を市街化区域として集住地域に入れようと思っている。過去のツケもあるが、将来に担っていただくような案として皆さん方に展望をもっていただくということが今の提案である。

4. 報告案件

天津湖南都市計画用途地域の変更及び地区計画決定の事前協議結果について

資料7に基づき事務局説明

報告結果 第1回野洲市都市計画審議会で協議いただいた内容で滋賀県と事前協議をした結果「異存なし」の回答があった旨の報告をした。また、地区計画については、「野洲市地区計画等の案の作成手続きに関する条例」に基づき、7月20日から8月2日まで公衆の縦覧に供した結果、意見の提出が無かったことを合わせて報告した。

5. 閉会

都市建設部長挨拶

以上